

北海道教育大学附属図書館

電子ジャーナルに関するアンケート調査
実施報告書

平成 22 年 3 月

北海道教育大学附属図書館

目 次

電子ジャーナルに関するアンケート調査概要	1
電子ジャーナルに関するアンケート調査結果	2
電子ジャーナルに関するアンケート調査結果のまとめ	12
電子ジャーナルに関するアンケート調査（記述編）	14
電子ジャーナルに関するアンケート調査実施要領	20
電子ジャーナルに関するアンケート調査依頼文書	21
電子ジャーナルに関するアンケート調査票	22
参考資料 電子ジャーナル利用統計	24

電子ジャーナルに関するアンケート調査概要

電子ジャーナルに関するアンケート調査は、本学の電子ジャーナルの利用状況及び意見・要望等を調査し今後の電子ジャーナルの整備の方向性・経費等の在り方について検討するための基礎資料を得ることを目的として、本学教員及び大学院生を対象として平成 21 年 12 月 17 日～平成 22 年 1 月 17 日の期間で実施した。

調査方法は、本学教員全員にアンケート調査票を配布し、記入後各構成館所定の場所に提出する、または図書館ホームページに掲載したアンケート調査票をダウンロードし、ダウンロードしたアンケート調査票に記入し、電子メールの添付ファイルとして所定のメールアドレスに送信することとした。電子ジャーナルの主な利用者は教員と思われるので、大学院生には、図書館ホームページからのお知らせと教員からの協力依頼等とし、全大学院生への配布は行わなかった。

アンケート調査票は本学の教員全員（平成 21 年 5 月 1 日現在 375 名）に配布し、回答数は 62 件で、教員の回答率は 16.53%であった。なお、大学院生からの回答は 8 件あった。

また、電子メールの添付ファイルとして送信されてきた回答が 12 件あった。

表 1 は各キャンパス別アンケート調査票回答数、表 2 はアンケート調査票回答者を分野別に分けた場合の回答数である。

表 1 各キャンパス別アンケート調査票回答数

	教 員	大学院生	小 計	教員数	教員回答率
札 幌	25	2	27	108	23.15%
函 館	10	0	10	74	13.51%
旭 川	15	6	21	77	19.48%
釧 路	7	0	7	60	11.67%
岩見沢	5	0	5	56	8.93%
合 計	62	8	70	375	16.53%

表 2 分野別アンケート調査票回答数

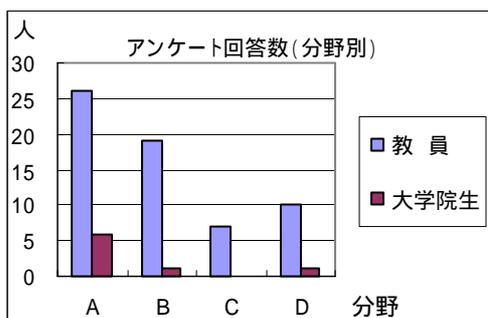
	教 員	大学院生	小 計	教員数	教員回答率
自然科学分野(理科,数学,情報,環境,看護等)	26	6	32	120	21.67%
人文・社会科学分野(心理学関係を除く)	19	1	20	146	13.01%
心理学関連分野	7	0	7	35	20.00%
芸術・スポーツ分野	10	1	11	74	13.51%
合 計	62	8	70	375	16.53%

電子ジャーナルに関するアンケート調査結果

【問1】あなたの所属する専攻名、分野名、グループ名等をご記入ください。

本学教員を分野別に、理科・数学・情報・環境・看護等の自然科学分野、心理学関係を除く人文・社会科学分野、心理学関連分野および芸術・スポーツ分野の4つに分けた。全学教員375名(平成21年5月1日現在)を4分野に分けた場合の各分野の回答率は、自然科学分野が最も高く21.7%を占め、ついで心理学関連分野が20%を占め、他の2分野は13%程度であった。

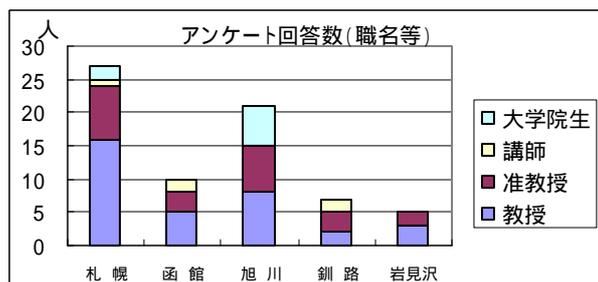
	教員	大学院生	計	教員数	教員回答率
A 自然科学分野(理科, 数学, 情報, 環境, 看護等)	26	6	32	120	21.67%
B 人文・社会科学分野(心理学関係を除く)	19	1	20	146	13.01%
C 心理学関連分野	7	0	7	35	20.00%
D 芸術・スポーツ分野	10	1	11	74	13.51%
合計	62	8	70	375	16.53%



【問2】あなたの職名等をお答えください。

回答者の約半数が教授であり、3分の1が准教授であったが、回答率としては、講師が最も高く21.7%を占めた。次いで教授16.8%、准教授15.4%の回答率であった。

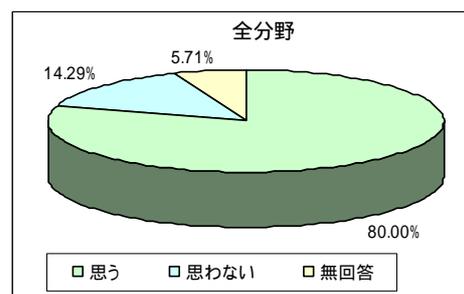
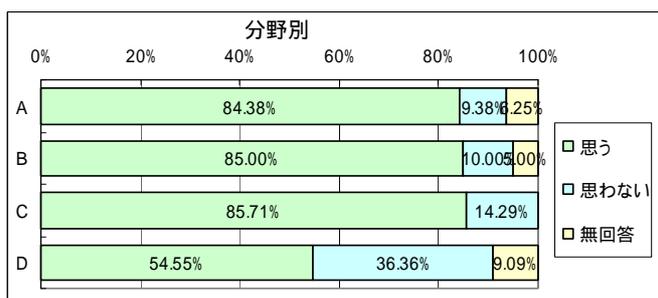
	札幌	函館	旭川	釧路	岩見沢	計	教員数	教員回答率
教授	16	5	8	2	3	34	203	16.75%
准教授	8	3	7	3	2	23	149	15.44%
講師	1	2	0	2	0	5	23	21.74%
大学院生	2	0	6	0	0	8	-	-
合計	27	10	21	7	5	70	375	16.53%



【問3】あなたは、学術情報基盤として北海道教育大学に電子ジャーナル(Science Direct, SpringerLink等のパッケージ)は必要と思いますか。

全回答者の80%が「思う」と回答しており、「思わない」の14.3%を大きく上回っている。アンケート回答者は全教員の16.5%と少ないが、本学の学術情報基盤として電子ジャーナルが必要である、と多くの教員が認識している結果と思われる。分野別でみると、芸術・スポーツ分野は50%程度と低いが、他の自然科学分野、人文・社会科学分野（心理学関係を除く）および心理学関連分野では、それぞれ約85%と高い。実技を主とする分野では、電子ジャーナルの必要性が低いことは止むを得ない結果と思われる。

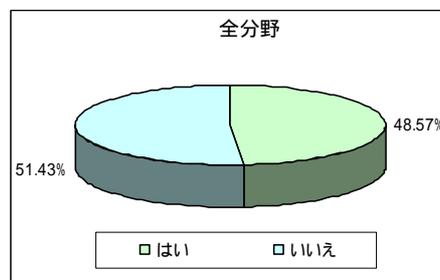
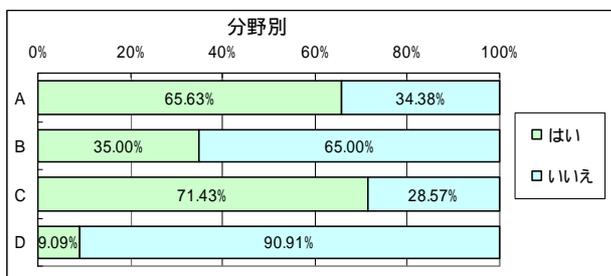
	思う	思わない	無回答	計	思う	思わない	無回答
A 自然科学分野(理科, 数学, 情報, 環境, 看護等)	27	3	2	32	84.38%	9.38%	6.25%
B 人文・社会科学分野(心理学関係を除く)	17	2	1	20	85.00%	10.00%	5.00%
C 心理学関連分野	6	1	0	7	85.71%	14.29%	0.00%
D 芸術・スポーツ分野	6	4	1	11	54.55%	36.36%	9.09%
合計	56	10	4	70	80.00%	14.29%	5.71%



【問4】あなたは電子ジャーナルを利用したことがありますか。

全回答者の48.6%が「はい(利用したことがある)」、51.4%が「いいえ(利用したことがない)」と回答している。分野別では、「はい(利用したことがある)」と回答した割合が最も高かった分野は心理学関連分野で71.4%であった。次いで、自然科学分野65.5%であった。人文・社会科学分野(心理学を除く)は35%、芸術・スポーツ分野は9%であった。電子ジャーナル自体が自然科学分野(科学、工学、医学等)の外国雑誌中心のものが多いことと、人文・社会科学分野でも比較的自然科学分野の分野に近く電子ジャーナルが整備されている心理学関連分野では「利用したことがある」割合が高い。心理学関係を除く他の人文・社会科学分野分野では様々な外国雑誌があるが、電子ジャーナルとして整備されてないことと、自然科学分野ほど最新の情報を即時入手する必要がないことにより、「利用したことがある」割合が低いものと思われる。芸術・スポーツ分野は前問同様、実技を主とする分野であるため「利用したことがある」割合が低いものと思われる。

	はい	いいえ	計	はい	いいえ
A 自然科学分野(理科, 数学, 情報, 環境, 看護等)	21	11	32	65.63%	34.38%
B 人文・社会科学分野(心理学関係を除く)	7	13	20	35.00%	65.00%
C 心理学関連分野	5	2	7	71.43%	28.57%
D 芸術・スポーツ分野	1	10	11	9.09%	90.91%
合 計	34	36	70	48.57%	51.43%



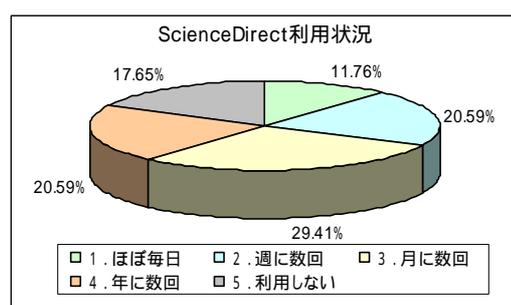
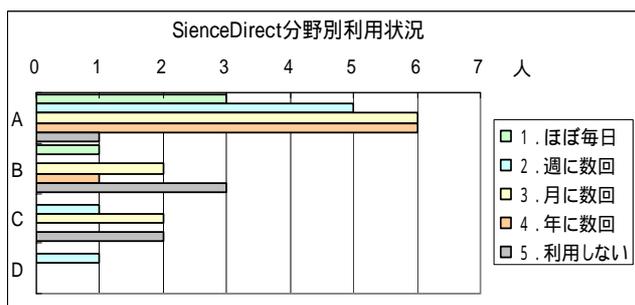
【問5】あなたが普段利用されている電子ジャーナルの利用頻度をお答えください。

a) Science Direct (Elsevier 社)

1. ほぼ毎日 2. 週に数回 3. 月に数回 4. 年に数回 5. 利用しない

「利用したことがある」と回答した回答者のうち 11.7%が「ほぼ毎日」利用しており、20.6%が「週に数回」利用している。最も高い利用頻度は「月に数回」で 29.4%であった。「ほぼ毎日」、「週に数回」および「月に数回」をあわせると、電子ジャーナルを利用したことがあると回答した回答者の 61.8%が月に数回以上利用しており、利用頻度が高い。

	1	2	3	4	5	計
A 自然科学分野(理科, 数学, 情報, 環境, 看護等)	3	5	6	6	1	21
B 人文・社会科学分野(心理学関係を除く)	1	0	2	1	3	7
C 心理学関連分野	0	1	2	0	2	5
D 芸術・スポーツ分野	0	1	0	0	0	1
合 計	4	7	10	7	6	34
	11.76%	20.59%	29.41%	20.59%	17.65%	100.00%

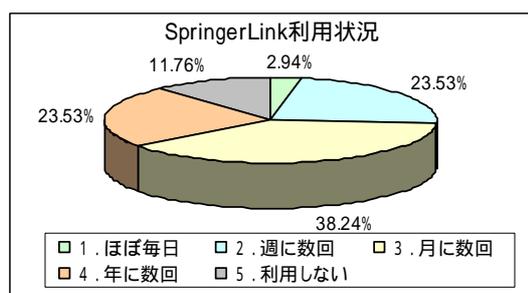
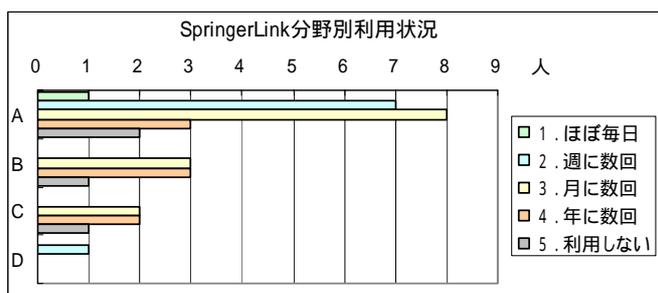


b) SpringerLink (Springer 社)

1. ほぼ毎日 2. 週に数回 3. 月に数回 4. 年に数回 5. 利用しない

「利用したことがある」と回答した回答者のうち 2.9%が「ほぼ毎日」利用しており、23.5%が「週に数回」利用している。最も高い利用頻度は「月に数回」で 38.2%であった。「ほぼ毎日」、「週に数回」および「月に数回」をあわせると、電子ジャーナルを利用したことがあると回答した回答者の 64.7%が月に数回以上利用しており、利用頻度が高い。

	1	2	3	4	5	計
A 自然科学分野 (理科, 数学, 情報, 環境, 看護等)	1	7	8	3	2	21
B 人文・社会科学分野 (心理学関係を除く)	0	0	3	3	1	7
C 心理学関連分野	0	0	2	2	1	5
D 芸術・スポーツ分野	0	1	0	0	0	1
合 計	1	8	13	8	4	34
	2.94%	23.53%	38.24%	23.53%	11.76%	100.00%

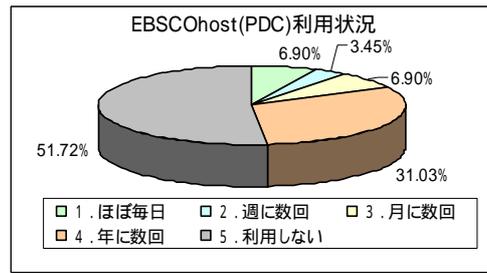
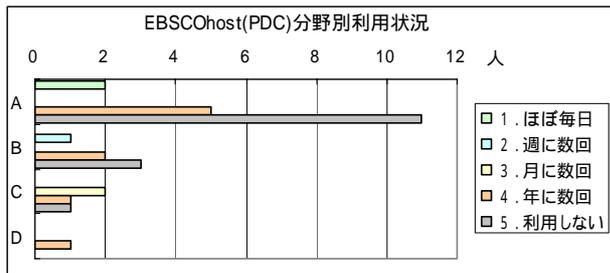


c) EBSCOhost (PDC: Professional Developmental Collection) (EBSCO 社)

1. ほぼ毎日 2. 週に数回 3. 月に数回 4. 年に数回 5. 利用しない

「利用したことがある」と回答した回答者のうち 6.9%が「ほぼ毎日」利用しており、3.5%が「週に数回」利用している。最も高い利用頻度は「年に数回」で 31%であった。「ほぼ毎日」、「週に数回」および「月に数回」をあわせると、電子ジャーナルを利用したことがあると回答した回答者の 17.3%が月に数回以上利用しているが、51.7%は利用しないと回答しており、利用頻度は高いといえない。

	1	2	3	4	5	計
A 自然科学分野 (理科, 数学, 情報, 環境, 看護等)	2	0	0	5	11	18
B 人文・社会科学分野 (心理学関係を除く)	0	1	0	2	3	6
C 心理学関連分野	0	0	2	1	1	4
D 芸術・スポーツ分野	0	0	0	1	0	1
合 計	2	1	2	9	15	29
	6.90%	3.45%	6.90%	31.03%	51.72%	100.00%

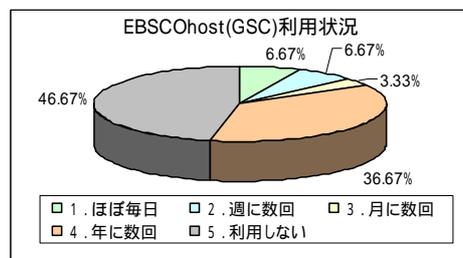
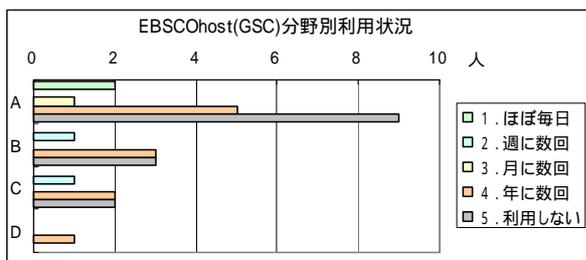


d) EBSCOhost (GSC: General Science Collection) (EBSCO 社)

1. ほぼ毎日 2. 週に数回 3. 月に数回 4. 年に数回 5. 利用しない

「利用したことがある」と回答した回答者のうち6.7%が「ほぼ毎日」利用しており、6.7%が「週に数回」利用している。最も高い利用頻度は「年に数回」で36.7%であった。「ほぼ毎日」、「週に数回」および「月に数回」をあわせると、電子ジャーナルを利用したことがあると回答した回答者の16.7%が月に数回以上利用しているが、46.7%は利用しないと回答しており、利用頻度は高いといえない。

	1	2	3	4	5	計
A 自然科学分野(理科, 数学, 情報, 環境, 看護等)	2	0	1	5	9	17
B 人文・社会科学分野(心理学関係を除く)	0	1	0	3	3	7
C 心理学関連分野	0	1	0	2	2	5
D 芸術・スポーツ分野	0	0	0	1	0	1
合 計	2	2	1	11	14	30
	6.67%	6.67%	3.33%	36.67%	46.67%	100.00%



e) その他(よく利用する電子ジャーナル名または雑誌タイトル名をご記入ください)

設問の意図は本学で購入しているパッケージ型電子ジャーナルに含まれないアクセスフリーの電子ジャーナル名(例えば JSTAGE 等のパッケージ名または個別タイトル名)の記入を期待したが、意図が理解されなかったようである。本学で購入している ScienceDirect や SpringerLink 等で提供されている雑誌タイトル名の記述が多数見受けられた。また、本学で電子ジャーナルとして購入していない雑誌タイトル名の記述も多数あった。雑誌タイトル名を出版社別にみると、本学で購入している電子ジャーナル以外では、Wiley-Blackwell 搭載の雑誌タイトル名が最も多かった。

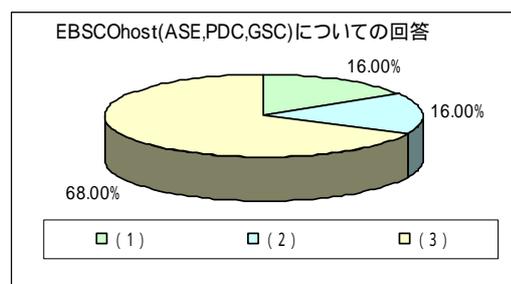
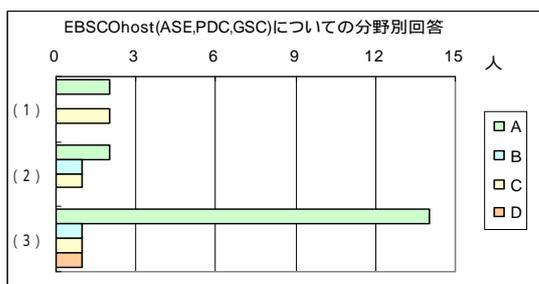
(記述編参照)

【問6】現在 EBSCO 社の電子ジャーナル ASE (Academic Search Elite) (総合分野約 2,100 誌のフルテキストデータベース) のトライアルを実施(H21.10～H21.12)しております。利用状況により、購読中の EBSCO 社の電子ジャーナル PDC 及び GSC の2つを中止して、ASE を導入することを検討しておりますが、このことについてお答えください。

- (1)PDC,GSC を中止して ASE を導入したほうが良い。
- (2)現状通り、ASE を導入せずに PDC,GSC を継続したほうが良い。
- (3)PDC,GSC を利用していないので、どちらでも良い。
- (4)その他(具体的に:)

PDC,GSC を中止して ASE を導入したほうが良いと回答したものが 4 名、現状通り ASE を導入せずに PDC,GSC を継続した方が良いと回答したものが 4 名と同数であった。また、PDC,GSC を利用していないので、どちらでも良いと回答したものは 17 名であった。利用者数等を考慮すると、現状では PDC,GSC に代えて ASE を導入するだけの理由を見いだせない。同様に、PDC,GSC を継続するだけの数的根拠も薄い、当面現状どおり PDC,GSC を継続することが無難と思われる。

	(1)	(2)	(3)	小計	(4)	無回答	計
A 自然科学分野(理科, 数学, 情報, 環境, 看護等)	2	2	14	18	2	1	21
B 人文・社会科学分野(心理学関係を除く)	0	1	1	2	2	3	7
C 心理学関連分野	2	1	1	4	1	0	5
D 芸術・スポーツ分野	0	0	1	1	0	0	1
合計	4	4	17	25	5	4	34
	16.00%	16.00%	68.00%	100.00%			



(4) その他

- ・試用期間中に試用しそびれたのでわからない。
- ・比較できるほど詳しくわからない。
- ・わかりません。
- ・利用していないので何とも言えない。
- ・この電子ジャーナルのトライアルのことを知りませんでした。アナウンスがありましたか？

【問7】現在購入しているパッケージ型電子ジャーナル(ScienceDirect, SpringerLink 等)も含めてあなたが必要とする電子ジャーナル(出版社・パッケージ名等)を優先度の高い順に5つまでお答えください。

もっとも回答の多かった電子ジャーナルは、本学で購入している Science Direct(18件)および SpringerLink(17件)であった。次いで、本学で平成20年まで購入していた Wiley 社の Wiley-Blackwell(9件)であった。その他では Nature Publishing Group の4件、Oxford Journals が3件、EBSCOhost のASEが2件であった。今回のアンケート結果から判断すると、本学で必要とする電子ジャーナルは、現在継続購入しているものを除くと、ワイリー社の Wiley-Blackwell となる。電子ジャーナルを拡大する場合の有力候補に挙げられるが、ワイリー社がブラックウェル社を吸収合併したことにより、購入金額が以前購入時の金額を大幅に上回るようになったため過去に中止した経緯があり、別途経費面の検討が必要である。

(記述編参照)

【問8】あなたが電子ジャーナルで利用しているまたは利用を希望する雑誌タイトル名を優先度の高い順に5つまでお答えください。

もっとも回答の多かった雑誌タイトル名は Nature(4件)であった。次いで複数件の回答があったものが8タイトルであった。回答純タイトル数97タイトルのうち重複タイトルは9タイトルと非常に少なく、残りの88タイトルはすべて単独回答である。本学が教員養成系大学で教員の専門分野が多岐に渡っているために、このように重複回答が少ない結果になったものと思われる。これらの雑誌を電子ジャーナルとして購読するためには、どのような形態の電子ジャーナル(出版社またはアグリゲータ系にするか)を購入することが経費面で効果的であるのか、さらなる検討が必要である。

(記述編参照)

アグリゲータ系：複数の出版社の電子ジャーナルを集めて、パッケージとして提供している。

EBSCOhost, ProQuest, BioOne 等がある。

【問9】問4で「いいえ」と回答された方におたずねします。

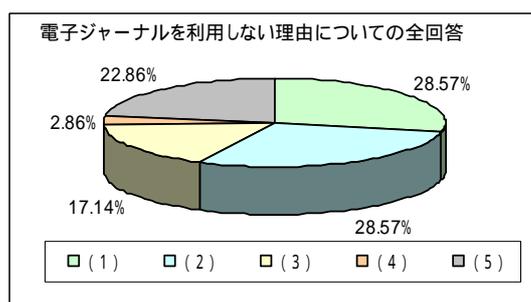
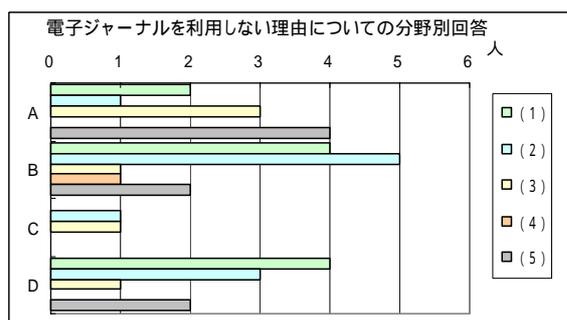
電子ジャーナルを利用しない理由として該当するものをお答えください。

(もっとも当てはまるものを1つ選んでください。)

- (1)自分の研究・教育・学習に必要としない。
- (2)自分の研究分野に該当する電子ジャーナルはあるが、冊子体(プリント版)の利用で十分である。
- (3)自分の研究分野に該当する電子ジャーナルがあれば利用する。下記に研究分野で必要とする雑誌タイトル名をご記入ください。
- (4)本学で購入している電子ジャーナル(ScienceDirect, SpringerLink 等)以外の電子ジャーナルがあれば利用する。具体的に電子ジャーナル名を下欄にご記入ください。
- (5)その他(具体的に:)

回答者のうち約半数が利用したことがないと回答しているが、その理由として最も多かったものは「自分の研究・教育・学習に必要としない」と「自分の研究分野に該当する電子ジャーナルはあるが、冊子体の利用で十分である」で、それぞれ28.6%を占めている。いずれも人文・社会科学分野(心理学関係を除く)と芸術・スポーツ分野の回答者が大多数を占めている。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	小計	無回答	計
A 自然科学分野(理科, 数学, 情報, 環境, 看護等)	2	1	3	0	4	10	1	11
B 人文・社会科学分野(心理学関係を除く)	4	5	1	1	2	13	0	13
C 心理学関連分野	0	1	1	0	0	2	0	2
D 芸術・スポーツ分野	4	3	1	0	2	10	0	10
合 計	10	10	6	1	8	35	1	36
	28.57%	28.57%	17.14%	2.86%	22.86%	100.00%		



(3)必要とする雑誌タイトル名

- ・ Technology Teacher EBSCOhost(PDC)に有り
- ・ Journal of Personality & Social Psychology
- ・ Journal of Social and Personal Relationships
- ・ Journal of Algebra(非常に特殊な分野でしかも高額だと思います。) Science Direct に有り
- ・ 心理学分野のジャーナルであれば何でも

(4)電子ジャーナル名

- ・ LexisNexis

(5)その他

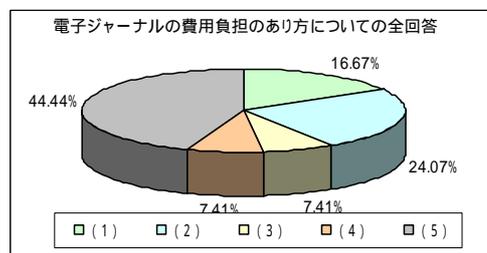
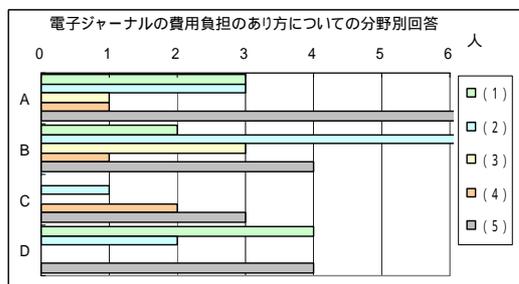
- ・ 電子ジャーナルとは何かすら知らなかった。
- ・ たまには見ているが、そう必要ではない。
- ・ どのように利用するのがよくわからない。
- ・ 詳しくわからないため(利用方法)
- ・ まだ知らなかった(今年着任なので)。
- ・ 利用したことがないので電子ジャーナルのことはよくわからない。
- ・ そうしたシステムが本学にあることを知りませんでした。
- ・ 多分電子ジャーナルはない。(日本史)
- ・ この3ヶ月半、たまたま論文を入手する必要がなかった。(10月に来ました)というより使用法がまだわかりません。

【問 10】電子ジャーナルの購入にあたっての費用負担のあり方について、あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。

- (1)冊子体の雑誌の購入と同じように、各個人または各研究室の予算で個別に自分の購読したい電子ジャーナルを購入する。
- (2)当該電子ジャーナルを必要とする教員または研究室が費用を出し合って購入する。
- (3)全学の教員が研究費から一律の金額を出し合って購入する。 一律の金額(具体的に: 円)
- (4)全学の教員が研究費から研究分野により割合を変えた金額を出し合って購入する。金額の割合(案があれば具体的に:)
- (5)大学全体で電子ジャーナル購入のための費用を用意して、その範囲で共同利用できる電子ジャーナルを購入する。費用の上限金額(具体的に: 円)
- (6)その他(具体的に:)

全回答者のうち無回答者、その他を除いた 54 名の中で、最も多かった回答は「大学全体で電子ジャーナル購入のための費用を用意して、その範囲で共同利用できる電子ジャーナルを購入する」で 44.4%を占めた。次いで「当該電子ジャーナルを必要とする教員または研究室が費用を出し合って購入する」が 24.1%を占め、「冊子体の雑誌の購入と同じように、各個人または各研究室の予算で個別に自分の購読したい電子ジャーナルを購入する」が 16.7%を占めた。回答者 54 名を回答内容から「電子ジャーナルを必要とする者が負担する」と「大学全体あるいは全学の教員が負担する」とに二分した場合、やや後者の割合が高い。分野別にみると、利用者の多い自然科学分野および心理学関連分野では、「大学全体で負担する」との回答が最も多く、利用者の少ない人文・社会科学分野（心理学関係を除く）および芸術・スポーツ分野では「電子ジャーナルを必要とする者が負担する」との回答が多かった。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	小 計	(6)	無回答	計
A 自然科学分野(理科, 数学, 情報, 環境, 看護等)	3	3	1	1	13	21	2	9	32
B 人文・社会科学分野(心理学関係を除く)	2	7	3	1	4	17	1	2	20
C 心理学関連分野	0	1	0	2	3	6	0	1	7
D 芸術・スポーツ分野	4	2	0	0	4	10	0	1	11
合 計	9	13	4	4	24	54	3	13	70
	16.67%	24.07%	7.41%	7.41%	44.44%	100.00%			



(3)一律の金額(具体的に: 円)

- ・ 5,000 円
- ・ 20,000 円
- ・ 30,000 円

(4)金額の割合（案があれば具体的に： ）

- ・ひとり5万くらいまで？

(5)費用の上限金額（具体的に： 円）

- ・2,000,000円
- ・500円
- ・10,000円前後
- ・as much as possible
- ・研究のための基盤整備として科研費等の間接経費を大幅にここに充填する
- ・すみません。一般にどの程度の金額で何ができるかわからないので提案できません。

(6)その他

- ・現在の方法を踏襲する
- ・大学全体に必要な電子ジャーナルは全て確保する。
- ・まず情報を知りたい。購読料、発行間隔、分野など。それからでないと判断できない。

電子ジャーナル全般について、ご意見・ご要望等ありましたら下欄にご記入ください。

アンケート回答者教員62名のうち28名から、意見・要望等の記入があった。28名のうち電子ジャーナルを利用していると回答した教員からの意見・要望等が18件、利用しないと回答した教員からの意見・要望等が10件であった。分野別にみると、自然科学分野から17件、人文・社会科学分野（心理学関連を除く）が4件、心理学関係が3件、スポーツ・芸術が4件であった。意見・要望等でもっとも多かった内容は、電子ジャーナルのさらなる充実を望む、現在購入中の電子ジャーナルの削減は避けるべきだ、大学の基盤として整備すべきである等で、あわせて14件あった。このうち電子ジャーナル利用者からの回答が13件占めており、利用者にとっては電子ジャーナルが教育・研究に不可欠なものであることが伺える。次いで多かった内容は、電子ジャーナルの経費等で7件あった。電子ジャーナルを利用していない回答者からの意見も4件あったが、電子ジャーナル経費は大学全体として予算措置すべきである、との意見が大多数を占めていた。その他の内容では、電子ジャーナルの利用についての講習会の希望や広報不足といった意見があった。

（ 記述編参照 ）

電子ジャーナルに関する調査のまとめ

本学附属図書館では、現在3社(Elsevier社、Springer社、EBSCO社)の電子ジャーナルを購入し延べ約4,600タイトルが利用可能となっている。平成14年度の電子ジャーナル導入後、7年余り経過し、その間新たな電子ジャーナルの追加、一部の電子ジャーナルの購読中止等があったが、導入時の約4倍程度に利用可能タイトル数は増加した。このような状況下で、電子ジャーナルの主な利用者である教員・大学院生対象にアンケート調査を行った。全学教員にアンケート調査票を配布し協力を依頼したが、電子ジャーナルに対する関心の度合いが低いせいか、教員の回答率は16.5%とかなり低調であった。電子ジャーナルに関するアンケート調査は導入当初の平成15年度にも教員対象に行っており、当時の回答率が17.6%であることから、今回の回答率が必ずしも低いものとは言えないが、本学における電子ジャーナルの今後の動向を検討する資料とするためには十分な回答率とは言えない。電子ジャーナルの利用状況は、「利用したことがある」(48.6%)、「利用したことがない」(51.4%)とほぼ半数に分かれた。平成18年度に実施した利用者アンケートの電子ジャーナルに関する設問についての教員142名の回答は「利用したことがある」(41%)、「知っているが利用したことがない」(54%)であった。今回の教員回答者数62名は平成18年度時の半数にも満たないが、利用の有無の割合にそれほど大きな変化は無い。このことから、本学の教員の約半数近くが電子ジャーナルを利用したことがある(または、利用している)と考えられる。今回の調査では、「利用したことがない」と回答した割合が51.4%と半数を超えているが、全回答者の80%が本学の学術情報基盤として電子ジャーナルが必要と思うと回答しており、電子ジャーナルを利用したことがない回答者も含めた大多数の教員が電子ジャーナルの必要度を認識している結果と思われる。

また、アンケート回答者を自然科学分野、人文・社会科学分野(心理学関係を除く)、心理学関連分野および芸術・スポーツ分野の4分野に分けて、アンケート回答内容を分析したところ、電子ジャーナル自体自然科学分野のジャーナルを主としているためか、一般的に電子ジャーナルの利用頻度の高い分野は自然科学分野と心理学関連分野であった。現在、本学で購入しているElsevier社のScienceDirectおよびSpringer社のSpringerLinkの2つのパッケージは比較的使用頻度も高く、よく利用されている方であるが、全文ダウンロード数からみると、今回の回答者の利用頻度からは推測できないほどのダウンロード数であるので、タイトル名からのアクセスというよりも、論文検索の結果として無意識に電子ジャーナルを利用しているというような事例があるものと思われる。今後は、このような利用形態を含めた調査を実施する必要がある。

一方、約半数の回答者が電子ジャーナルを利用したことがないと回答しており、その理由として最も多かったものは「自分の研究・教育・学習に必要としない」と「自分の研究分野に該当する電子ジャーナルはあるが、冊子体の利用で十分である」で、それぞれ30%

近くを占めている。後者の「電子ジャーナルはあるが、冊子体の利用で十分である」を選択した約 30%の回答者が、今後電子ジャーナルに関心を持ち利用するか否かにより、利用の動向も変わってくるものと思われる。

なお、電子ジャーナル購入の費用負担については、当然のことながら、利用している回答者からは、「大学全体または全学の教員が負担する（共通経費化）」の割合が高く、利用していない回答者からは、「電子ジャーナルを必要とする者が負担する（受益者負担）」の割合が高い。現在購入中の電子ジャーナルは図書館で経費を負担しているが、電子ジャーナルの価格上昇等を考慮すると、将来的には現状維持も難しくなることが予想される。さらに電子ジャーナルを現状以上に拡大することは、図書館の経費だけでは不可能である。電子ジャーナルの維持・拡大のためには、共通経費化して大学全体で負担することが望ましいが、今回のアンケート調査回答者数および調査結果から、共通経費化について全学的な理解を得られるかどうかは課題である。

最後に、本学は教員養成を主とする教育大学であるので、教員の専門分野が多岐に渡っているため、電子ジャーナルの必要性、利用状況も様々である。今回のアンケート調査の範囲では、現状以上に電子ジャーナルを拡大することも縮小することについても、経費面を含めて明確な方向性は見いだせなかったが、アンケート調査回答者の多数が本学の学術情報基盤として電子ジャーナルの必要性を認識していることは、今後電子ジャーナルのさらなる充実を図るうえでの大きな収穫である。

（文責：学術情報室総括主査 高橋鉄雄）

電子ジャーナルに関するアンケート調査(記述編)

問5.e) その他(よく利用する電子ジャーナル名または雑誌タイトル名)

No.	タイトル等	件数
1	Nature	3
2	Oecologia	3
3	International Journal of Science Education	2
4	Journal of Research in Science Teaching	2
5	Neuron	2
6	Science Education	2
7	Adult Basic Education (成人基礎教育)	1
8	American Chemical Society (アメリカ化学会)	1
9	American Journal of Physiology	1
10	Annals of Mathematics	1
11	British Journal of Social Work	1
12	Cambridge Journals Online	1
13	Cell	1
14	Chemical Geology	1
15	Chemistry Letters	1
16	Child Development	1
17	Child Study Journal	1
18	Clinical Biomechanics	1
19	Comparative Education	1
20	Comparative Education Review	1
21	Contributions to Mineralogy and Petrology	1
22	Corpus Linguistics and Linguistic Theory	1
23	Current Biology	1
24	Developmental Biology	1
25	Developmental Psychology	1
26	Early Childhood Education Journal	1
27	Educational Psychologist	1
28	Educational Theory	1
29	Electrochemistry Communications	1
30	Electrochimica Acta	1
31	EPSL(Earth and Planetary Science Letters)	1
32	European Journal of Applied Physiology	1
33	European Journal of Special Needs Education	1
34	Evolution(個人加入:学会員)	1
35	Experimental and Applied Acarology	1
36	Heart	1
37	International Journal of Corpus Linguistic	1
38	International Social Work	1
39	Journal of Applied Electrochemistry	1
40	Journal of Biogeography	1
41	Journal of Biomechanics	1
42	Journal of Electroanalytical Chemistry	1
43	Journal of Electromyography and Kinesiology	1
44	Journal of Evolutionary Biology(個人加入:学会員)	1
45	Journal of Exceptional Children	1
46	Journal of Refugee Studies	1
47	Journal of Vegetation Science	1
48	JVGR(J. Volcanology Geothermal Research)	1
49	LexisNexis	1
50	Lithos	1
51	Molecular Phylogenetics and Evolution	1
52	Muscle & Nerve	1
53	Nature Medicine	1
54	Neuroscience	1

No.	タイトル等	件数
55	Planet Ecology	1
56	Population Ecology	1
57	Projet Euclid(数学と統計に関する電子ジャーナルの集合体)	1
58	Psychology in the Schools	1
59	pubs.acs.org(アメリカ化学会出版物HP)	1
60	Science	1
61	Social Work in Mental Health	1
62	Surface Science	1
63	Teachers College Record	1
64	Australian Social Work	1
65	Trends in Ecology & Evolution	1
66	Wiley InterScience	1
67	Zoologischer Anzeiger	1
68	触媒	1
69	大学の研究紀要	1

問7 現在購入しているパッケージ型電子ジャーナル(ScienceDirect, SpringerLink等)も含めて、あなたが必要とする電子ジャーナル(出版社・パッケージ等)を優先度の高い順に5つまでお答えください。

No	電子ジャーナル(出版社、パッケージ等)	件数
1	Science Direct	18
2	SpringerLink	17
3	Wiley-Blackwell	9
4	Nature Publishing Group	4
5	Oxford Journals	3
6	EBSCOhost ASE	2
7	Science	2
8	A Quarterly Review of Education	1
9	Academic Search Elite	1
10	ACS	1
11	Adult Basic Education	1
12	Adult Basic Education and Literacy Journal	1
13	Annals of Mathematics	1
14	BioOne	1
15	BMJ Publishing	1
16	Brill	1
17	Cambridge Journals Online	1
18	EBSCOhost GSC	1
19	Electrochem. Comm.	1
20	Electrochimica Acta	1
21	ERIC	1
22	Experimental and Applied Acarology	1
23	International Journal of Acarology	1
24	International Journal of Educational Development	1
25	International Journal of Lifelong Education	1
26	Invertebrate Systematics	1
27	J. App. Electrochem.	1
28	J. Electroanal. Chem.	1
29	Japanese Journal of Applied Physics	1
30	Journal of Natural History	1
31	Journal of Personality and social Psychology(電子ジャーナルかどうかわからない)	1
32	J-STAGE	1
33	JSTOR	1
34	LexisNexis	1
35	Project Euclid	1

No	電子ジャーナル(出版社、パッケージ等)	件数
36	Psyc ARTICLES	1
37	PsychInfo	1
38	Psychology in the Schools	1
39	PsycLit(以前こういう名前のデータベースだった。心理学関係の雑誌を集めたもの。今はどうなっているかわからない)	1
40	SAGE Journals Online	1
41	SCOPUS	1
42	Social Work Abstracts	1
43	Surface Science	1
44	Web of Science	1
45	Zootaxa	1
46	基礎心理学研究	1
47	触媒学会	1
48	日本化学会	1

問8. 電子ジャーナルで利用しているまたは利用を希望する雑誌タイトル名

No	タイトル	件数
1	Nature	4
2	Developmental Biology	2
3	Developmental Neurobiology (Wiley)	2
4	Ecology	2
5	International Journal of Science Education	2
6	Journal of Geophysical Research	2
7	Journal of Research in Science Teaching	2
8	Science	2
9	Science Education	2
10	A Quarterly Review of Education	1
11	Adult Basic Education	1
12	Adult Basic Education and Literacy Journal	1
13	American Psychologist	1
14	Applied Catalysis	1
15	Applied Geography	1
16	Atherosclerosis	1
17	British Journal of Social Work	1
18	British Journal of Special Education	1
19	Chemical Geology	1
20	Chemistry Letters	1
21	Child Development	1
22	Cold Regions Science and Technology	1
23	Contrib. Mineral. Petro.	1
24	Current Biology	1
25	Curriculum Inquiry	1
26	Developmental Psychology	1
27	Earth Planet. Sci. Lett.	1
28	Educational Psychologist	1
29	Educational Psychology Review	1
30	Educational Studies	1
31	Educational Theory	1
32	Electrochem. Comm.	1
33	Electrochimica Acta	1
34	Entomologia Experimentalis et Applicata	1
35	European Journal of Special Education	1
36	Experimental and Applied Acarology	1
37	Forest Ecology and Management	1
38	G Cubed (Geochemistry Geophysics Geosystems)	1
39	Geology	1

No	タイトル	件数
40	Global Environmental Change	1
41	History of Education Quarterly	1
42	Human Development	1
43	Infant and child Development	1
44	International Journal of Acarology	1
45	International Journal of Educational Development	1
46	International Journal of Lifelong Education	1
47	International Social Work	1
48	Inventiones Mathematicae	1
49	Invertebrate Systematics	1
50	Journal of Applied Electrochemistry	1
51	Journal of Biomechanics	1
52	Journal of Catalysis	1
53	Journal of Comparative Neurology (Wiley)	1
54	Journal of Curriculum Studies	1
55	Journal of Ecology	1
56	Journal of Educational Psychology	1
57	Journal of Electroanalytical Chemistry	1
58	Journal of Electromyography & Kinesiology	1
59	Journal of Experimental Psychology	1
60	Journal of Functional Analysis	1
61	Journal of Mathematical Analysis and Applications	1
62	Journal of Natural History	1
63	Journal of Personality and Social Psychology	1
64	Journal of Physical Chemistry	1
65	Journal of Refugee Studies	1
66	Journal of Technology Studies	1
67	Journal of the American College of Cardiology	1
68	Journal of Vegetation Science	1
69	Land Use Policy	1
70	Landscape Ecology	1
71	Language	1
72	LexisNexis	1
73	Linguistics	1
74	Magnetic Resonance Imaging	1
75	Mathematische Annalen	1
76	Mathematische Zeitschrift	1
77	Memory	1
78	Merrill Palmer Quarterly	1
79	Metabolism	1
80	Molecular and Cellular Biochemistry	1
81	Physical Review Letters	1
82	Planet Ecology	1
83	Proceeding of the National Academy of Science of the United States of America	1
84	Psychlit	1
85	PsycholInfo	1
86	Psychological Bulletin	1
87	Psychological Review	1
88	Surface Science	1
89	Teachers College Record	1
90	Technology & Children	1
91	Technology Teacher	1
92	The Australian Journal of Social Work	1
93	The Journal of Petrology	1
94	The Journals of Migration and Refugee Issues	1
95	Topics in Catalysis	1
96	TRENDS IN ECOLOGY AND EVOLUTION	1
97	Zootaxa	1

意見・要望等

研究や学生への教育のため必要な情報は、電子ジャーナルによるところが非常に大きく、これ以上の削減がなされると大変大きな支障を来すこととなります。Wileyが中止となったことで非常に困っており、是非復活して頂きたいとあります。電子ジャーナルを含めた図書館の整備は、大学として非常に重要なことだと思います。

さらに充実することを願います。

金額がかなりかかる場合もあり、すべて大学全体でカバーする、あるいは個人の研究費から支出するのは無理があるかと思います。大学の予算がこれから益々厳しくなっていくであろうことを考えると、汎用性の高い雑誌は別にして(Nature, Scienceなどなど)、専門的な雑誌は個人で払える分はできるだけ個人で払うのが適切かと思います(専門的な雑誌とは、国内外学会誌や、学内の利用者がかかり限定されるようなかなり専門的な雑誌など)。

単科大学なのに雑多で分野・領域が多く、それに対応した電子ジャーナルを揃えようとする自体が予算的にも現実的にも無理である。もっとも教員養成に特化して本当に必要なものは何なのか？ 真に必要なもの以外は極力排除してスリム化し、予算的にも無理のないように運営すべきと考える。このまま、教員養成として何が必要なのかをとの考えなくしてジャーナルを増やしても意味がない。

電子ジャーナルに限らず研究用図書・学術専門誌は理科などの実験設備と同じ基盤的な研究「設備」です。その意味で問10の(1)-(4)はナンセンスです。

様々な研究分野に対する範囲をカバーしてほしいです。研究・教育のためには絶対に電子ジャーナルの充実が必要です。

何か研究をしようと思った時にその情報を集めることが出来なかったら非常に困ります。膨大な量の文献を見ているため、取り寄せるのも大変です。また、学ぶ意欲がある人が学べない環境になってしまえば、大学としての機能を果たせていないと思います。購入雑誌の減少にも悩まされる中、電子ジャーナルまで排除してしまえば、大学の意味にも影響を与えますし、何より私自身が困ります。

Wiley InterScienceの契約が中止されたことが残念です。

電子ジャーナルの利用方法に関する講習会を開催していただけるとありがたいです。どのようなジャーナルがあるのか(心理学分野で)知りたいです。

私としましては、今の所、必要な論文があれば、図書館におねがいしてとりよせてもらうので、そんなに電子ジャーナルを必要とはしません。全学的に、予算を確保して、電子ジャーナルにあてることはとてもよいことだと思います。

電子ジャーナルの整備は大学として最低限の設備だと思います。個人研究費からの支出にするなら、その分の予算を上乗せして、各自で購入するなど、削減しない方向を願っています。

個人で電子ジャーナルを購入していますが大学内からアクセスすると課金されません。またID、パスワードも要求されません。お金がかかっていないので問題ありませんが、何となく不明朗です。

これまでに電子ジャーナルの利用に関して、利用案内などがなされた記憶がありません。よく知らなかったというのが実情です。ScienceやNatureなども無料でダウンロードできる環境を希望します。

学術雑誌は全学で共有(共同利用)するのがベストですので、図書館経費が不足でしたら、不足分を教員研究費から出すのは当然だと思います。

函館校の図書館は内容が乏しいため電子ジャーナルの充実は必須とされます。また、学生への周知(どんな雑誌や何が読めるか、どう読むか、印刷方法などの手法について)もおねがいをしたいと思います。

これを機会に活用したいと思います。

Science DirectとSpringerLinkにより最新の多くの論文が入手できて、研究には非常に役立っています。Science DirectとSpringerLinkの購入の継続を強く希望します。

電子ジャーナルは会員にならなければならず会費等の関係で利用したことはありません。なので、よくわかりません。科研費の間接経費を活用したらよいと思います。

現在、本学の購入しているジャーナルは減少を続けています。そのため、電子ジャーナルは必要なものは全て用意しておく必要があります。大学としてこれは最低限必要なことです。

研究費で個人利用ができるように、アレンジを求める(後で請求できる、など)。(Institutionalの契約は学生・教員が読むことを前提とするため、非常に高いが、実体にそぐわないことが多い)

利用実績がないため具体的な金額(費用)等についての提示はいたしません。ジャーナルが研究に資することは当然のことです。またそうしたものを広く学内で共有すべきと考えます。購入しているジャーナルの周知が図られると利用状況もかわるかと思います。

- ・今後、利用する機会をつくっていききたい。
- ・電子ジャーナルの利用を、もっと勤めていく活動を行っていくとよい。

電子ジャーナル自体は非常に便利で、部屋にいながら文献が入手できありがたいです。

私自身の領域に関して現在適当な電子ジャーナルを知りませんが、だからといって受益者負担というのは研究機関としては問題でしょう。もちろん、研究費をけずるというのも、ちょっとちがうような気がします。

アメリカ数学会が運営するデータベース「Math Sci Net」を閲覧できるようにして欲しいです。数学と数理物理が中心で、全文は見られませんが多くの場合アブストラクトとレビューが読めます。電子ジャーナルには複写依頼という代替手段がありますが、Math Sci Netにはないので是非導入を検討して欲しいです。

電子ジャーナルは、地理的に厳しい研究環境にある本学にとって研究基盤の生命線だと思います。利用者による自己負担ではなく、大学として整備すべきものではないでしょうか。大学としての品格が問われているように思います。拡充こそあれど後退はさけるべきではないでしょうか。

現状は十分なタイトルを有しているとはいえない。拡充は難しいかと思うが、縮小は是非とも避けて欲しい。

電子ジャーナルに関するアンケート調査実施要領

「電子ジャーナルに関するアンケート調査」実施要領

1. 目的

この調査は、本学における電子ジャーナルの利用状況及び意見・要望等を調査することにより、今後の電子ジャーナルの整備の方向性・経費等のあり方を検討するうえでの参考資料とするために実施する。

2. 調査対象者

本学の教員及び大学院生

3. 実施期間

平成21年12月17日 ~ 平成22年1月22日

4. アンケート調査用紙の配布・回収方法等の手順

1) アンケートについての教員宛アンケート調査依頼文書及びアンケート調査用紙のファイルを電子メールの添付ファイルで、各校学術情報グループ専門職宛てに送信する。

2) 各構成館で、**教員宛アンケート調査依頼文書の3. 回答方法の の 及びアンケート調査用紙の の にアンケート提出場所を記載**し、各キャンパスの全教員に配布する。その際、アンケート調査用紙は、大学院生分も考慮して複数枚添付する。

3) アンケート調査の回答方法は、次のどちらかとする。

アンケート調査用紙に記入して各構成館指定の場所に提出する。

アンケート調査用のファイルをダウンロードし、ファイルに記入し電子メールの添付ファイルとして学術情報室総括主査宛に送信する。

・アンケート用紙ダウンロード先

<http://s-opac.sap.hokkyodai.ac.jp/library/LIMIT/ej-tyosa/>

・電子メール宛先

t-senmon@sap.hokkyodai.ac.jp

4) 各構成館で回収したアンケート調査用紙を、学内便で学術情報室総括主査宛に送付する。

電子ジャーナルに関するアンケート調査依頼文書

平成21年12月17日

教員各位

附属図書館長
山本光朗

電子ジャーナルに関するアンケート調査（依頼）

本学附属図書館では、現在3社（Elsevier社、Springer社、EBSCO社）の電子ジャーナルを購入し延べ約4,600タイトルが利用可能です。平成14年度の電子ジャーナル導入後、7年余り経過し、その間新たな電子ジャーナルの追加、一部の電子ジャーナルの購読中止等がありましたが、導入時の約4倍程度に利用可能タイトル数が増加しております。

電子ジャーナルは大学における学術情報基盤のひとつとして教育研究活動に欠かせない存在ですが、その経費は図書館経費で充当しており、毎年の価格上昇等を考慮すると今後購読中止も検討せざるを得ません。限られた予算の中で、本学の必要とする電子ジャーナルを効果的に導入する必要があります。

ついては、利用者各位の電子ジャーナルの利用状況および意見・要望等を調査し今後の電子ジャーナルの整備の方向性・経費等のあり方について検討するため、標記アンケートを下記のとおり実施いたしますので、ご多忙中のところ恐縮ですが、是非ご協力くださるようお願いいたします。

なお、本アンケートは大学院生も対象としておりますので、指導されている大学院生にも協力依頼くださるようあわせてお願いいたします。

記

1. 回答期限

平成22年1月22日（金）

2. 調査対象

本学の教員及び大学院生

3. 回答方法

回答は、以下のどちらかの方法でお願いします。

別紙アンケート調査用紙に記入のうえ、 に提出ください。

附属図書館ホームページからアンケート調査用ファイルをダウンロードし、ファイルに記入のうえ、電子メールの添付ファイルとして送信ください。

ダウンロード先 <http://s-opac.sap.hokkyodai.ac.jp/library/LIMIT/ej-tyosa/>

電子メール宛先 t-senmon@sap.hokkyodai.ac.jp

問い合わせ・連絡先

学術情報室（担当：高橋）

E-mail t-senmon@sap.hokkyodai.ac.jp

Tel:（内線283、札幌キャンパス以外は51-283）

電子ジャーナルに関するアンケート調査

該当する回答の 箇所をチェック (または 印) し、必要事項をご記入のうえ、1月22日までに、 に提出ください。

- 問1 . あなたの所属する専攻名、分野名、グループ名等をご記入ください。
()
- 問2 . あなたの職名等をお答えください。
(1)教授 (2)准教授 (3)講師 (4)大学院生 (5)その他(具体的に:)

- 問3 . あなたは、学術情報基盤として北海道教育大学に電子ジャーナル (ScienceDirect , SpringerLink 等のパッケージ) は必要と思いますか。
(1)思う (2)思わない

- 問4 . あなたは電子ジャーナルを利用したことがありますか。
(1)はい 問5へ (2)いいえ 問9へ

- 問5 . あなたが普段利用されている電子ジャーナルの利用頻度をお答えください。
- a) ScienceDirect(Elsevier 社)
(1)ほぼ毎日 (2)週に数回 (3)月に数回 (4)年に数回 (5)利用しない
 - b) SpringerLink(Springer 社)
(1)ほぼ毎日 (2)週に数回 (3)月に数回 (4)年に数回 (5)利用しない
 - c) EBSCOhost (PDC : Professional Developmental Collection) (EBSCO 社)
(1)ほぼ毎日 (2)週に数回 (3)月に数回 (4)年に数回 (5)利用しない
 - d) EBSCOhost (GSC : General Science Collection) (EBSCO 社)
(1)ほぼ毎日 (2)週に数回 (3)月に数回 (4)年に数回 (5)利用しない
 - e)その他 (よく利用する電子ジャーナル名または雑誌タイトル名をご記入ください)
1 . _____
2 . _____
3 . _____
4 . _____
5 . _____

- 問6 . 現在 EBSCO 社の電子ジャーナル ASE(Academic Search Elite) (総合分野約 2,100 誌のフルテキストデータベース) のトライアルを実施(H21.10~H21.12)しております。利用状況により、購読中の EBSCO 社の電子ジャーナル PDC 及び GSC の 2 つを中止して、ASE を導入することを検討しておりますが、このことについてお答えください。
(1)PDC,GSC を中止して ASE を導入したほうが良い。
(2)現状通り、ASE を導入せずに PDC,GSC を継続したほうが良い。
(3)PDC,GSC を利用してないので、どちらでも良い。
(4)その他 (具体的に:)

- 問7 . 現在購入しているパッケージ型電子ジャーナル (ScienceDirect , SpringerLink 等) も含めてあなたが必要とする電子ジャーナル (出版社・パッケージ名等) を優先度の高い順に 5 つまでお答えください。
1 . _____
2 . _____
3 . _____
4 . _____
5 . _____

問8．あなたが電子ジャーナルで利用しているまたは利用を希望する雑誌タイトル名を優先度の高い順に5つまでお答えください。

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

問9．問4で「いいえ」と回答された方におたずねします。

電子ジャーナルを利用しない理由として該当するものをお答えください。

(もっとも当てはまるものを1つ選んでください。)

(1)自分の研究・教育・学習に必要としない。

(2)自分の研究分野に該当する電子ジャーナルはあるが、冊子体(プリント版)の利用で十分である。

(3)自分の研究分野に該当する電子ジャーナルがあれば利用する。

下記に研究分野で必要とする雑誌タイトル名をご記入ください。

1. _____
2. _____
3. _____

(4)本学で購入している電子ジャーナル(ScienceDirect, SpringerLink等)以外の電子ジャーナルがあれば利用する。

具体的に電子ジャーナル名を下欄にご記入ください。

1. _____
2. _____
3. _____

(5)その他(具体的に: _____)

問10は、教員の方のみお答えください。

問10．電子ジャーナルの購入にあたっての費用負担のあり方について、あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。

(1)冊子体の雑誌の購入と同じように、各個人または各研究室の予算で個別に自分の購読したい電子ジャーナルを購入する。

(2)当該電子ジャーナルを必要とする教員または研究室が費用を出し合って購入する。

(3)全学の教員が研究費から一律の金額を出し合って購入する。

一律の金額(具体的に: _____ 円)

(4)全学の教員が研究費から研究分野により割合を変えた金額を出し合って購入する。

金額の割合(案があれば具体的に: _____)

(5)大学全体で電子ジャーナル購入のための費用を用意して、その範囲で共同利用できる電子ジャーナルを購入する。

費用の上限金額(具体的に: _____ 円)

(6)その他(具体的に: _____)

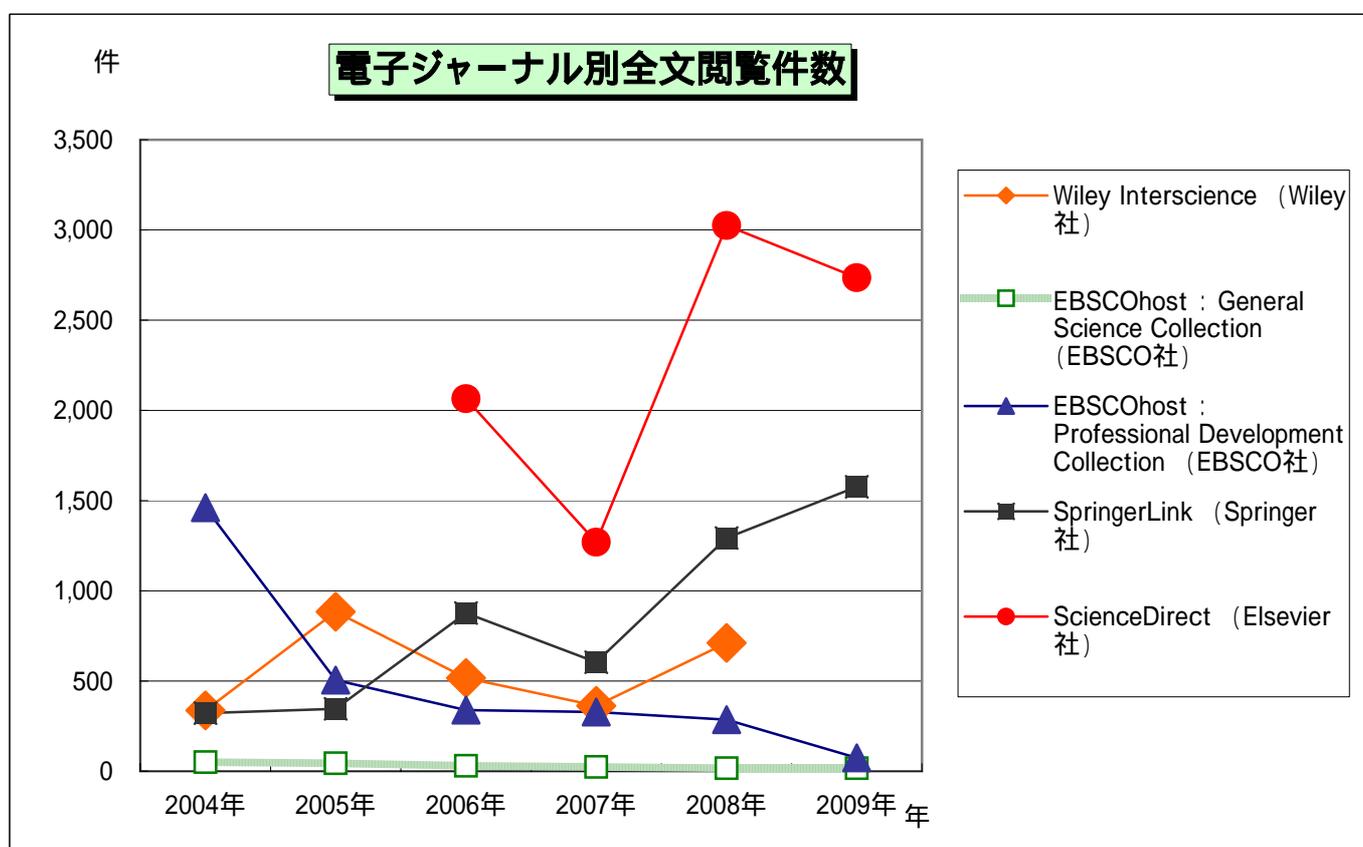
電子ジャーナル全般について、ご意見・ご要望等ありましたら下欄にご記入ください。

ご協力ありがとうございました

電子ジャーナル利用統計

電子ジャーナル別全文閲覧(HTML, PDF)件数

電子ジャーナル (出版社)	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	備考
Wiley Interscience (Wiley社)	337	884	517	363	711		2008.12中止
EBSCOhost : General Science Collection (EBSCO社)	50	44	30	24	17	17	
EBSCOhost : Professional Development Collection (EBSCO社)	1,461	505	339	328	286	74	
SpringerLink (Springer社)	322	346	877	604	1,293	1,577	
ScienceDirect (Elsevier社)			2,065	1,270	3,025	2,736	
合計	2,170	1,779	3,828	2,589	5,332	4,404	





平成 22 年 3 月 31 日発行

編集・発行 北海道教育大学附属図書館

〒002-8503

札幌市北区あいの里 5 条 3 丁目 1 番 6 号

電話 (011) 778-0284 (ダイヤルイン)

FAX (011) 778-0635